

景気ウォッチャー調査 (沖縄地域) ～2025年1月調査～

観光需要に加え地元の需要も好調
物価高騰による消費者の購買意欲の低下が引き続き懸念される

一般財団法人 南西地域産業活性化センター
メールマガジン

用語の説明

【景気ウォッチャー調査】

- ・地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々から、顧客の様子など日々感じている街角の景気について、毎月調べている調査。

【DI値】

- ・生産や消費、物価などの景気変動に関する複数の指標から、景気の方角性や各経済分野への波及度合いを示す。値が50を上回る期間が多いと景気が好調傾向にあり、50を下回る期間が多いと不調傾向にある。

【季節調整値】

- ・季節的な要因で毎年同じような動きをするもの（夏にアイスクリームが沢山売れるなど）があることから、前月や前々月と比較する際に季節的な要因を除いた数値。

【現状判断(景気の方角性)】

- ・3か月前の景気状況と比較した、今月の身の回りの景気の具体的な状況などの説明。

【先行き判断】

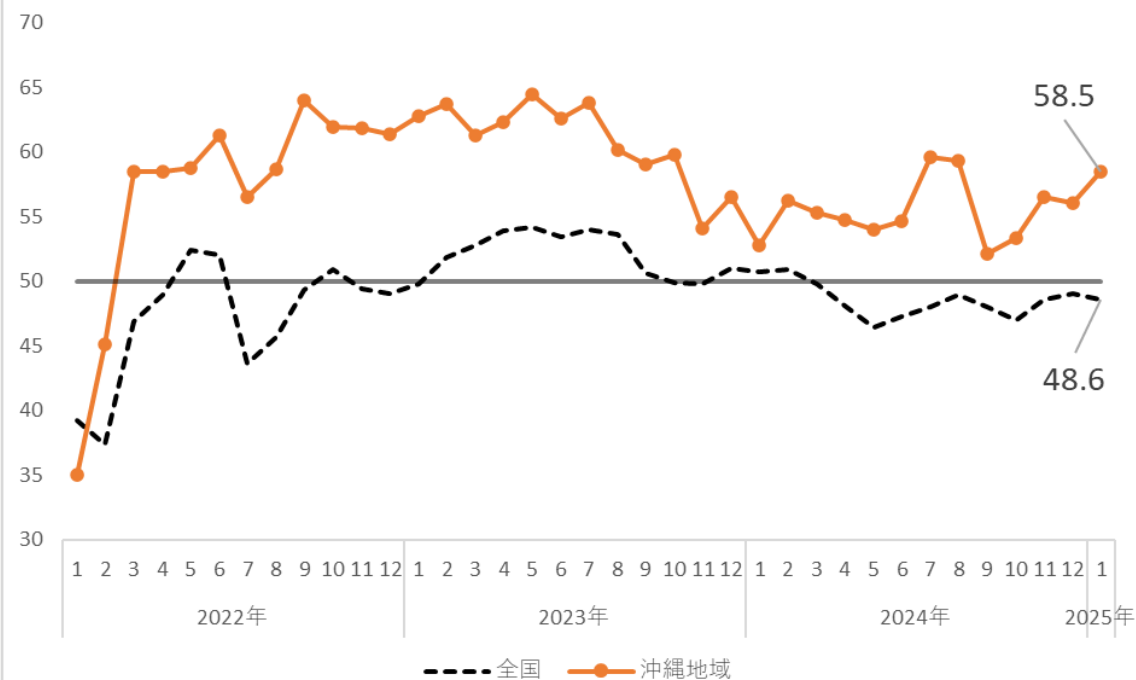
- ・2～3か月先の身の回りの景気を今月の景気と比較した際の判断理由。

※本資料は、2025年2月10日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」をもとに作成しています。詳細な結果は下記URLからご確認ください。
<https://www5.cao.go.jp/keizai3/2025/0210watcher/menu.html>

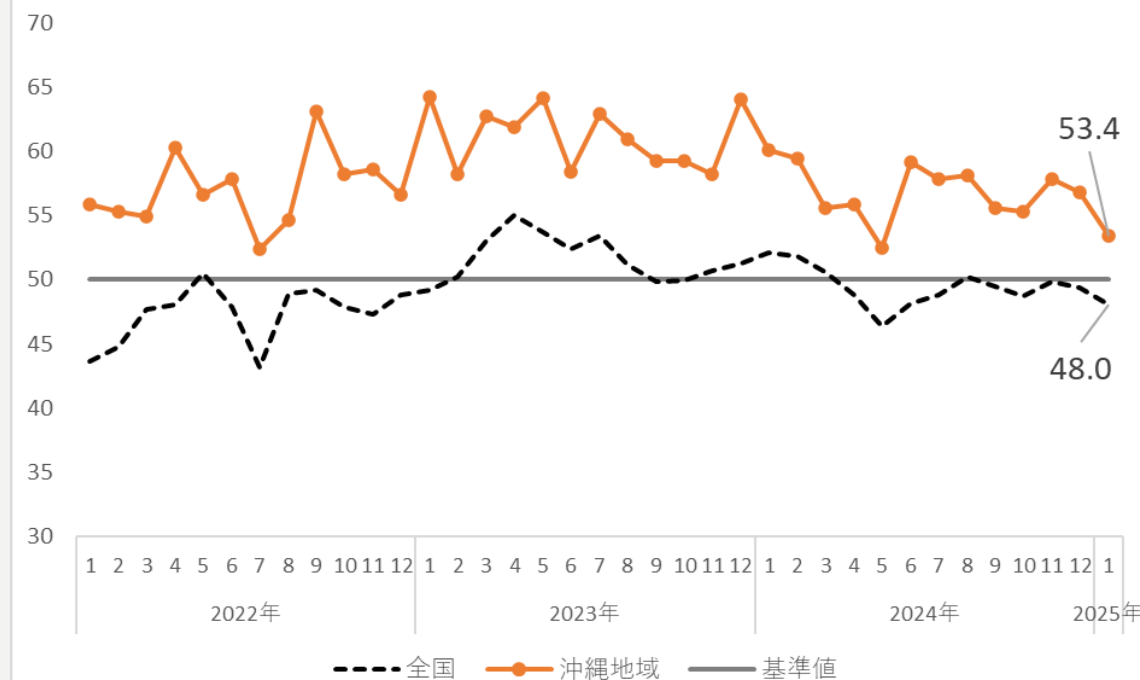
2025年1月調査DI値（季節調整値）

- 1月の現状判断DI（季節調整値）は、前月比2.5ポイント増加の58.5と増加している。景気の判断基準となる50を上回っており、好況を維持している。
- 1月の先行き判断DI（季節調整値）は、前月比3.4ポイント減少の53.4となり下降傾向ではあるが、判断基準の50を上回っていることから好況を維持している。
- 全国の現状判断DI値は48.6、先行き判断のDI値は48.0と共に減少傾向にあり、判断基準となる50を下回る結果となった。

現状判断DI値（季節調整）



先行き判断DI値（季節調整）



現状判断のコメント①

- 年末年始の影響もあり、地元客、インバウンドでの需要がおおむね好調であった。また、「その他飲食店」では、例年は来客数が減少するが、今年は減少していない。
- 物価高騰により、「通信会社」、「住宅販売会社」などでは、来客や販売数、受注件数が減少している。「旅行代理店」からは、販売量は減少していないが宿泊をためらう客が増加している。

<家計動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

◎	家電量販店（営業担当）	・沖縄県が実施するキャンペーンが1月末で終了することから、対象商品のエアコンと冷蔵庫の売上が2けた伸長と好調に推移している。
○	百貨店（経営担当）	・地元客による年末年始需要が活発となり、インバウンド需要もおおむね好調に推移している。
○	その他飲食店 [バー]（経営者）	・例年だと1月は成人の日を過ぎると来客数が減少するが、今月は減少することなく来客している。
○	観光型ホテル（企画担当）	・10月のホテル販売室数が前年比22%増加したのに対し、1月は前年比40%増加しており、プラス幅が大きくなっている。
□	旅行代理店（マネージャー）	・販売量は減少していないが、宿泊単価が想定より高額なことから、宿泊をためらう客が増加している。
□	通信会社（営業担当）	・月初めは好調だったが第2週からは来客数、販売数共に落ち着いていることから、販売量は前年比80%に減少している。他社からの乗換えは多いが買換えの客が大きく減少しており、厳しい状態にある。
▲	住宅販売会社（取締役）	・民間受注件数が前年と比較して、20%減少している。

現状判断のコメント②

- 企業動向関連では、原材料の高騰や人件費など費用の増加により利益率が低下している。また、価格の上昇により売行きが低調がみられる。
- 雇用関連では、業種によって求人数に増減の差が見られ、人材派遣についてはマッチングにつながらないなどの厳しい状況が続いている。

< 企業動向関連 >

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

□	窯業土石業（取締役）	・売上は前年並みに回復したが、原材料価格の高騰及び運搬費と人件費の増加により製造原価が上昇し、利益率が低下している。
▲	食料品製造業（役員）	・1月になり引き続き観光関連は堅調に推移しているが、野菜価格の上昇により食品関連の売行きが例年よりも低調になっている。

< 雇用関連 >

○	求人情報誌制作会社（営業）	・6月から12月にかけて求人数は緩やかに減少傾向であったが、3か月前と比較し今月の求人数は10%増加している。業種や業態カテゴリーとしても全体的に増加している。ただし、前年同月比では20%減少している。
○	学校〔専門学校〕（就職担当）	・2025年となり、多くの企業から求人を受けている。会社説明会の依頼もあり、多くの企業が基本給を前年より上げている。
□	人材派遣会社（経営者）	・派遣依頼が増加している業種と変わらない業種で分かれている。
□	人材派遣会社（総務担当）	・求人数に対して求職者の動きが鈍く、マッチングにつながらない。
□	職業安定所（職員）	・新規求職者、新規求人数共に減少している一方で、シニア層の求職者数は増加となっている。物価高のため年金だけでは生活が苦しいという声がある。

先行き判断のコメント①

- ・観光需要の増加が見込まれる一方で物価高の影響による売上の低下から、景気の見通しが良くなる傾向がなく、悪くなるなどの意見がみられた。
- ・特に「家電量販店」では沖縄県が実施しているキャンペーン終了に伴う反動減や価格高騰による消費の減少が懸念されている。

<家計動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○ 観光型ホテル（企画担当）	・ 1月のホテル販売室数が前年比40%増加に対して、1月末時点での4月の予約室数は前年比74%増加と、プラス幅が大きくなっている。
○ 住宅販売会社（役員）	・ 再開発地域での住宅建設や本島北部での大型レジャー施設開業も控えていることから、投資的需要も活発になるとみられる。
□ スーパー（企画担当）	・ 米を始めとした各食品の値上げにより、今後も節約志向と単価上昇が続くとみられる。そのため、今後2～3か月の景気は横ばいが続くとみられる。
□ 衣料品専門店（経営者）	・ 今月は年明けセールでの売上が期待していたが、想定より売上は上がっていない。客の購買意欲も感じられないため、景気は悪いままだとみられる。
□ その他飲食店 [バー]（経営者）	・ 来客数は悪くないが、物価高の影響で売上が良くない状況である。物価が低下する要素はないため、景気が良くなる実感はない。
▲ コンビニ（経営企画担当）	・ 米の価格高騰により、米飯類の販売価格を引き上げせざるを得ない状況である。今回の値上げについては、消費者の購買意欲を大きく低下させるおそれがあるとみている。
▲ 旅行代理店（マネージャー）	・ 県外出張が徐々に増えつつあったが、宿泊先の確保または高額な宿泊費により、今後は出張の回数が減るなど何らかの影響があるとみられる。
× 家電量販店（営業担当）	・ 沖縄県が実施するキャンペーンが2024年6月～2025年1月のため、対象商品であるエアコンと冷蔵庫の反動減が起きるとみている。

先行き判断のコメント②

- 企業動向関連では、観光客や見積依頼の増加、大型レジャー施設の開業などによる需要の増加が期待されている。
- 雇用関連では、事業拡大ではなく人材を穴埋めするための派遣依頼の増加や企業から景気回復の声が聞かれないなど懸念が見られる。

<企業動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○ 食料品製造業（役員）	・プロ野球キャンプシーズンも始まり、今年度も円安の影響で国内外からの観光客も増加が期待されるため、個人消費の拡大が見込める。
○ 窯業土石業（取締役）	・受注状況に大きな変化はないが、見積依頼が公共、民間ともに増加傾向にある。
□ 輸送業（経営企画室）	・米国新政権の発足による貿易関連産業への影響がみえない状況ではあるが、大型レジャー施設の開業に伴い観光需要の増加に期待できる。

<雇用関連>

□ 人材派遣会社（経営者）	・派遣依頼が積極的展開や事業拡大のためではなく、単に人材を穴埋めするためのものが増えている。
□ 求人情報誌制作会社（営業）	・前年同月の増加率は高かったが、今年は前年同月ほど求人数が増加していない。今後3か月は横ばいの求人数だとみられる。
□ 職業安定所（職員）	・求人を提出する企業からは、景気回復に関する声が聞こえてこない。
□ 学校〔専門学校〕（就職担当）	・前年より前倒しで求人を受けたり、説明会を実施しているため、例年より早くピークを終える可能性があると思われる。